

2017年

パシイワ「国連平和の日」の集い

“アジア太平洋／女性／WWⅡ／友好”

パシイワと交流の深い東南アジアと太平洋の国
真の友好を育むために知っておきたい
私たちの間にあった光と影の歴史

日本アジア関係史の専門家がインドネシア滞在の
経験などを交えて語ります

主催：日本汎太平洋東南アジア婦人協会(日本パシイワ)

日時：9月22日(金) 13:30～15:30

場所：津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス2階会議室

講師：内海愛子先生

歴史社会学者 恵泉女学園大学名誉教授

大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター

特任教授

講題：「アジア太平洋／女性／WWⅡ／友好」

*申し込み先：日本パシイワ Tel/Fax: 947-351-0775 (柳下真知子)

eメール: mchk1103@gmail.com

*申し込み期限：2017年9月19日(水) 先着順 (無料)

*交通アクセス：JR総武線「千駄ヶ谷駅」下車 徒歩1分(裏面地図参照)

都営地下鉄大江戸線「国立競技場駅」下車 出口 A4 徒歩約1分

内海愛子先生のプロフィールは裏面をご覧ください。



講師 内海愛子先生のプロフィール

早稲田大学第一文学部、同大学院終了後、1975年から2年間、日本語教員としてインドネシアのバンドンにあるパジャジャラン大学に勤める。帰国後、「アジアの女性たちの会」や「アジア太平洋資料センター」(PARC)で活動するとともに、文化学院、立教大学などの非常勤講師をへて、恵泉女学園大学人文学部教授、早稲田大学大学院客員教授(日本アジア関係論)。現在、恵泉女学園大学名誉教授、大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター特任教授。

『マンゴウの実る村から—アジアの中のニッポン』(現代書館、1983年)は、バンドン滞在中の体験をまとめたものである。

1980年代はPARC(アジア太平洋資料センター)で「えび研究会」をつくり、エビ養殖池のある台湾、インドネシア、フィリピンの海辺を歩き、オーストラリアのトレス海峡にも出かける。そこで日本から出稼ぎにきたダイバーや真珠養殖の話を知る。「ルマ・メラ」(赤い家)の話も聞いた。

エビ調査の一部は村井吉敬編著『エビの向こうにアジアが見える』(学陽書房 1992年)にまとめられている。ダイバーの話は、共著『海境を越える人びと：真珠とナマコとアラフト海』(コモンズ 2016年)に収録している。

『戦後補償から考える日本とアジア』(山川出版社 2002年)は、アジアに滞在し、歩き、調査する中で見えてきたことをまとめたリブレットである。最近では加藤洋子さんたちとの共著『戦後責任—アジアのまなざしにこたえて』(岩波書店 2014年)、『歴史を学び、今を考える』(梨の木舎 2017年)を刊行した。

現在、日本軍の捕虜、抑留者について調査研究する市民団体 POW 研究会共同代表。

